



北スラウェシ日本人会

NORTH SULAWESI JAPAN CLUB

日本人会会報

# タルシウス

TARSIUS

第6号



ゴロンタロの英雄 ナニ・ワルタボネの記念像

1999年7月発行

# 北スラウェシ日本人会会報 《タルシウス 第6号》

## 目 次

- |  |               |    |
|--|---------------|----|
| ◇ ゴロンタロ観光案内  | 川井 雄二 .....   | 2  |
| ◇ グローバルな視点から、インドネシアの母子保健を考える<br>インドネシア<br>母と子の健康手帳プロジェクト | 芝山江美子 .....   | 9  |
| ◇ はじめまして   | 野田奈緒子 .....   | 13 |
| ◇ インドネシアー<br>トモホン町に別荘を作って見て                              | 川口 博康 .....   | 15 |
| ◇ ビトンでの鯉節製造の歴史について(2)<br>戦後の鯉節工場について                     | 川口 博康 .....   | 20 |
| ◇ インドネシアのまぐろ延縄漁業(2)                                      | 長崎 節夫 .....   | 28 |
| ◇ 大岩勇と鯉節に見る南洋史の断片  | 藤林 泰 .....    | 33 |
| ◇ 「レフォルマシ」の陰で  | 松井 和久 .....   | 35 |
| ◇ アンボンからの避難民   | 松井 和久 .....   | 37 |
| ◇ 0, Ina ni Keke ちょっとお嬢さん<br>—マナドで唄って—                   | 庵 波人 .....    | 39 |
| ◇ インガ... インガ...  | 川井 雄二 .....   | 50 |
| ◇ 編集後記   | 日本人会編集部 ..... | 51 |

# ゴロンタロ観光案内

川井 雄二

ゴロンタロは、行政的には、ゴロンタロ県（県庁所在地リンボト）とゴロンタロ市の2つの組織（地域）に分けられる。民族的にはゴロンタロ族であり、ミナンカバウ族と同様に、イスラーム色が強く、ゴロンタロ人＝ムスリムといっても過言ではないだろう。スラウェシにおけるイスラーム化は、ゴロンタロが最も早く、1525年である。次いでプトンの1542年。南スラウェシがイスラーム化したのは17世紀初頭である。

戦前より『メナドは港、ゴロンタロは五郎太郎』と言われるが、これは全くの俗説である。北スラウェシ州の主要4民族を、通常『ボフサミーBOHUSAMI』と呼ぶが、これは、①Bolaang Mongodow、②Hulontalo、③Sangihe Talaud、④Minahasaの略である。これからも判るように、ゴロンタロは本来フロンタロであり、それは「放浪する」という意味の『Hulontalo』から派生した語である。

ゴロンタロ県には、有名な《ドゥモガ・ボネ国立公園》を始めとして、クワンダンの《オレンジ要塞》、《リンボト湖》、《ロンボンゴ温泉》などいろいろな観光名所があるが、この稿ではゴロンタロ市を中心とした観光案内としたい。

## ゴロンタロ市

ゴロンタロ市は、1999年3月19日に生誕271周年を迎えた。

マナド人が自分たちの同胞を『カワヌア/Kawanua』と呼ぶように、ゴロンタロ人は自分たちの同胞に対し『カラワン/Karawang』と呼ぶ。

マナドがサム・ラトウランギの街であるとすれば、ゴロンタロはナニ・ワルタボネ（後述）の街である。空港名こそジャラルディンであるが、これは、ナニ・ワルタボネが1986年まで在命していたからであろうと思われる。

ゴロンタロは動物の街である。馬や山羊が放し飼いになっており、我が物顔で街を闊歩している。市の中心部の入口には《Kawasan Bebas Hewan Lepas》（動物放し飼い禁止区域）の看板が出ており、ここから先は動物を繋いでおかなければならない。

市民の足となっているのが『ベンディー/Bendi』と呼ばれる乗り合い馬車である。要所毎に馬用の餌である干草を販売している店がある。

他に小型バスやベチャもある。市内は平地でほとんど坂道がないので、ベチャ屋にとっては楽であろう。

ゴロンタロは秩序正しい街である。街中の全ての塀や柵が、緑と白のツートン・カラーで統一されており、美しい景観となっている。これは教会や仏教寺院も例外ではない。

ゴロンタロの一日は、朝の礼拝《Subuh》から始まる。大小のマスジッド（モスク）から流れてくるアザーンは街のどこにいても聞こえる。イスラーム圏にいたことが実感される時である。朝の礼拝の後、市民の最初の仕事は、家の前の道路にある馬糞を片付ける事である。

クリスチャンの街マナドとムスリム／ムスリマーの街ゴロンタロはいろいろな面で対称的である。その一つに人々の服装がある。ゴロンタロでは、ノースリーブやミニスカート姿の女性を見かけることは滅多にない。女性の多くはジルバブで頭髪を被っている。

また、ビールなどを販売しているレストランでは、入口にカーテンやついたてを置き、外から中が見えないようにしてある。ラマダーン月には、日中全てのレストランが完全に閉まるという。以前は、バーやカラオケなども数軒あったが、住民の反対運動にあたり、客数が少なく経営困難に陥ったりして、現在では全て閉鎖状態となっている。僅かにビリヤード店が数軒営業している程度で、夜の娯楽の少ない健全な街である。



## ナニ・ワルタボネ (NANI WARTABONE)

1907年4月30日、Boludawa Suwawa 村で生まれる。

家族はゴロンタロの貴族階級出身。

ゴロンタロのHIS (オランダ式原住民小学校) を卒業後、スラバヤのMULO (初等中学校) で学ぶ。その後一時トンダノのMULOに移籍するが、再びスラバヤのMULOに戻り、1928年に卒業する。

スラバヤ時代はスカルノらと親交を結び、1928年ゴロンタロに戻るとPNI (インドネシア国民党) ゴロンタロ支部を結成するため活動したが、スカルノが逮捕され、支部結成前にPNIは解散した。

1931年にはPartindo (インドネシア党) ゴロンタロ支部を結成し、支部長に就任した。同党が禁止されると、ムハマディヤ社会運動組織で活躍するようになる。

こうして彼の名は、ゴロンタロの津々浦々まで知れ渡る事となり、『1942年1月23日事件』を指導することに繋がる。

1986年1月3日 (金) 11:30、故郷ゴロンタロで死去した。

## 1942年1月23日事件 (Peristiwa Merah Putih 23 Januari 1942 di Gorontalo)

1942年 (昭和17年) 1月、日本軍のミナハサ占領のニュースは直ぐゴロンタロまで広まった。僅かな戦力で日本軍に抗戦する無意味を悟ったオランダ軍の W. C. Romer 隊長は、軍事施設のみならず一般主要建物を焼き払い、ゴロンタロを焦土と化し、中部スラウェシに遁走する計画を立案した。その計画を事前に入手したナニ・ワルタボネは、オランダ軍に対抗しゴロンタロを死守することを決意した。

1942年1月23日未明、ナニ・ワルタボネに指導された、スワワ村、カビラ村、テルナテ村、ブギス村などの近隣の民衆は、続々と市街に向かい、その列は10キロに達した。集結した民衆は、午前5時には既に街の主要建物の周りを囲み終えていた。ナニ・ワルタボネはオランダ軍に対し最後通牒を下した。事が既に決したことを知ったオランダ軍15名は武器を捨て、民衆の前に降伏した。こうしてゴロンタロは、ナニ・ワルタボネが望んだ通り、一滴の血も流すことなく、インドネシア民衆に解放されたのである。

1942年1月23日 (イスラーム暦1361年ムハッラム月6日) 午前10時。ナニ・ワルタボネは、同志 Kusno Danupoyo の横で記念すべき宣言を行なった。

『本日、1942年1月23日、我々インドネシア民族は、この地 (ゴロンタロ) において独立を為し遂げた。いかなる支配からも自由になった。我々の旗は紅白旗。我々の民族歌はインドネシア・ラヤ。我々の言語はインドネシア語である。』

1945年8月17日に先駆け、ゴロンタロでは既に独立宣言が行なわれていたのである。その後ゴロンタロにも日本軍による軍政が敷かれ、1942年6月6日、紅白旗は禁止され日章旗だけが翻るようになった。しかし、この1942年1月23日事件の精神は、ゴロンタロ人の誇りとして、現在も脈々と受け継がれている。

### ゴロンタロ中央郵便局

Jl. A. Yani No.16 Gorontalo

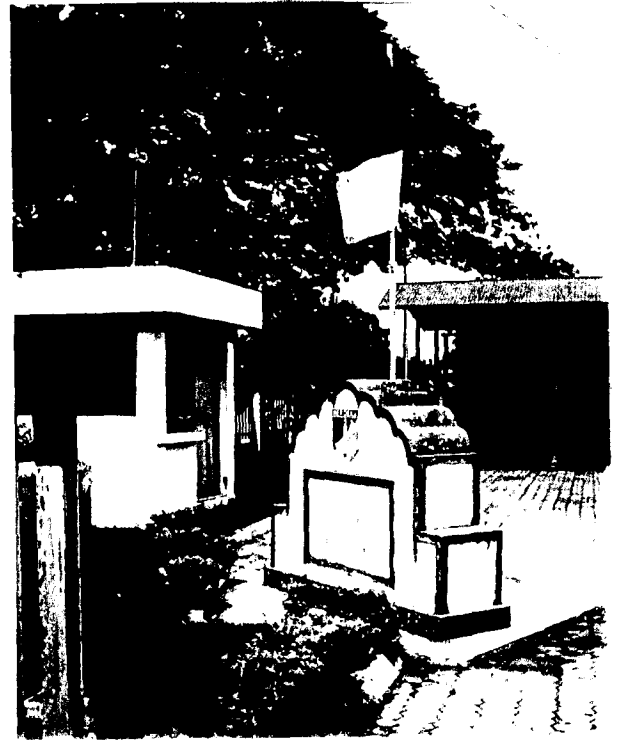
1942年1月23日、歴史的な  
独立宣言が行なわれた地。



"Pada hari ini tanggal 23 Januari 1942 kita bangsa Indonesia yang berada di sini, sudah merdeka bebas, lepas dari penjajahan bangsa manapun juga. Bendera kita yaitu Merah-Putih, lagu kebangsaan kita adalah Indonesia Raya. Pemerintah Belanda sudah diambil alih Pemerintah Nasional."

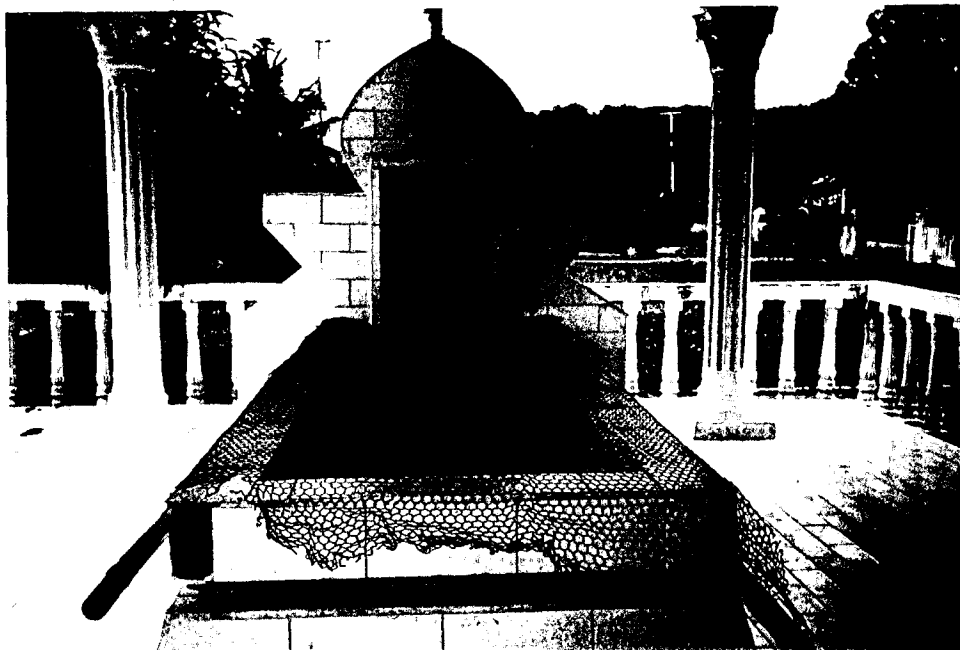


ナニ・ワルタボネ 記念像



前頁の中央郵便局敷地内にある記念碑

1987年8月17日、C.J. RANTUNG州知事によって公認化された。



ナニ・ワルタボネの墓

その横には夫人の墓がある。

夫: NANI WARTABONE  
1907年4月30日生まれ。  
1986年1月3日没。

妻: AISA WARTABONE TANGAHU  
1910年10月6日生まれ。  
1977年11月22日没。

## オタナハ要塞 (BENTENG OTANAHA)

《オタナハ要塞》群は、1978年～1981年に修復され、1981年2月10日、Prof. DR. Haryati Soebadio教育文化局長により公認化された。1992年には、文化保護材として指定された。(UU No. 5 THN 1992 Tentang Cagar Budaya) 市街の西方にあるデンベ村に位置する。

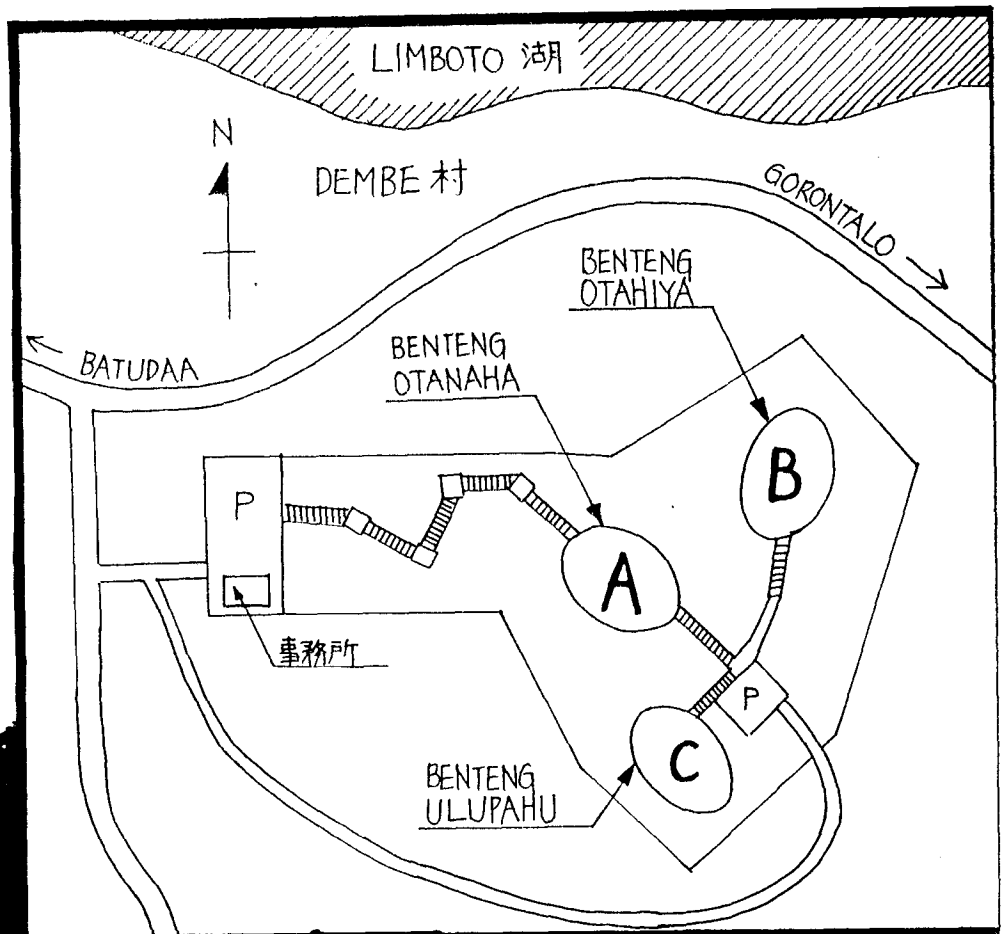
要塞群は、建造年代が異なる3つの要塞、『オタナハ(OTANAHA)』『オタヒヤ(OTAHIYA)』『ウルパフ(ULUPAHU)』から成り、それぞれが石段で連絡されている。

要塞は、積み上げた石を、砂と石灰をマレオの卵で練ったもので固めて造られたという。

最初のオタナハ要塞に行くには、300段弱の、長い険しい石段を登らなければならない。途中で4カ所の休憩所があるので休みながら登ることができる。人が息を切らせ苦しんでいる脇で、山羊たちが、ヒョイヒョイ楽しそうに走り廻っているのを見るのは癪である。石段には白ペンキで段数が書かれているので、苦心して数える必要がない。

オタナハ要塞がある頂上まで登ると、かなりの標高になる。ここから眺めるリンボト湖の風景は素晴らしく、一大パノラマである。

オタナハ要塞見取図



Nomor :

J1141

**DINAS PARIWISATA  
KODYA DATI II GORONTALO**

*Segi Pengawasan*

**KARCIS TANDA MASUK**

**OBJEK WISATA**

**BENTENG OTANAHA**

(Sesuai Perda No : 8/1992)

*Dewasa Rp. 500,- / Orang*

**Asuransi Jasa Raharja Putera Rp. 50**

この要塞の基は、1525年頃、ポルトガル軍に対抗するために、イラト王 (Ilatu / Mato Lodulakiki) (1505-1585) が建てたものである。しかし、イラト王は、ポルトガル軍の攻撃に耐えきれずに要塞を捨て後方に撤退した。

イラト王とトランブラ王妃 (Tolanghula) の間には、ンドバ (Ndoba) ティリアヤ (Tiliaya) ナハ (Naha) という3人の子がいたが、1585年ナハが要塞跡に戻り、同地に新しい要塞を建造した。これが、オタナハ要塞である。

ナハと妻オヒヒア (Ohihia) の間には、パハ (Paha) とリモノ (Limonu) の2人の子がいたが、パハが建造した要塞が、ウルパフ要塞である。



《オタナハ要塞》 後方に見えるのは、リンボト湖である。

#### マスジッド・バイトウッラヒム (MASJID BAITURRAHIM)

イスラーム国ゴロンタロを象徴する大モスクである。名前の『バイトウッラヒム』とは、『慈悲あまねく家』という意味である。

1728年に建造され、1979～1982年に修復された。現在は拡張工事中。1999年8月完成予定であったが、経済危機のため工事が遅れている。

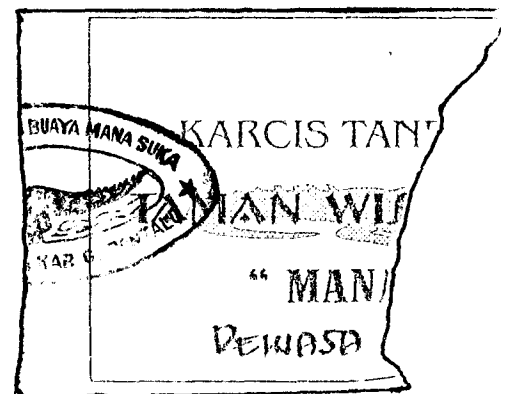
市街の中央、バスキ・ラフマツ通りには位置する。ゴロンタロ市民が誇りとするこのモスクの壮麗さは、アチェやメダンの大モスクにも引けをとらない。特に夜間、緑色に輝くミナレット (塔) の美しさは格別である。この塔を見るだけでもゴロンタロに行く価値がある。

#### 魚罟園《マナ・スカ》 (TAMAN WISATA BUAYA "MANA SUKA")

実業家 Ramli M. Abadita 氏(50)が設立した民間の小動物園。1999年2月21日、ゴロンタロ県知事 (代理人 Abudullah Talani氏) によってオープンされた。

市街から東に12キロ、ゴロンタロ県カビラ (Kabila) 郡ロヌオ (Lonuo) 村に位置する。

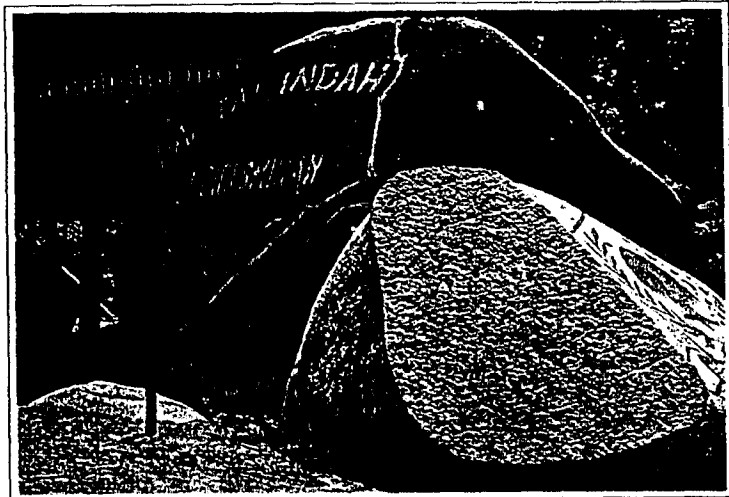
主な動物：ワニ。アノア。クスクス。緑蛇 (猛毒性)。大蛇。ソワソワ (大蜥蜴の一種)。猿。兎。  
敷地は1ヘクタールあり、今後段階的に施設を拡大していく予定である。



## パンタイ・インダ (PANTAI INDAH)

ゴロンタロ市街から南西僅か2キロのポヘ(Pohe)村に、パンタイ・インダ (美しい海岸) と呼ばれる海岸がある。ゴロンタロ市民の憩いの地になっており、休日には家族連れの観光客で賑わう。釣やボート遊びが楽しめる。

海岸沿いには、《巨人の足跡》と呼ばれる大石がある。大石が鋭利な刃物で切断されたように平らに削られており、それが足跡のように見える。伝説によると、巨人、『ラヒロテ (Lahilote)』が天空から地上に降りる時、片足をこの地に下ろしたのだという。もう一方の足はボネ(Bone)海岸に下ろしたという。



A Giant footprint on a stone

《 巨人の足跡 》と呼ばれる大石



パンタイ・インダは、崖にある巨石群の奇観で有名

## トンビロ・トへの夜 (Malam Tombilo Tohe)

毎年、ラマダーン月27日夜、ゴロンタロの景色は一変する。灯油を入れた陶器やブリキ缶の即製のランプが、家の庭、道路、田畑などあらゆる空地に置かれ、何万、何十万という灯火が街中を煌々と照らすのだ。

これが、『トンビロ・トへの夜』、別名『灯火の夜』である。このゴロンタロの伝統的儀式はインドネシア国内でも有名で、毎年テレビで放映される。

『トンビロ・トへの夜』の儀式は、聖クルアーン (コーラン)、第97章《神戒 (みいつ) 章》の故事に基づく。

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの名において。①本当にわれは、神戒の夜に、この(クルアーン)を下した。②神戒の夜が何であるかを、あなたに理解させるものは何か。③神戒の夜は千月よりも優る。④(その夜)天使たちと精霊は、主の許しのもとに、凡ての神命をもたらして下る。⑤暁の明けるまで、(それは)平安である。

神戒(カドル)は、偉力、神命、運命あるいは富、価値などの意。神戒の夜(ライラトル・カドル)とは預言者ムハンマドがマッカ郊外のヒラー山上の洞窟で、最初の啓示に接した夜をさすといわれる。それがラマダーン月の27日(また25日、23日、あるいはその他の)夜であるともいわれる。  
【訳/注: 日本ムスリム協会】

出稼ぎで地方へ出ていたゴロンタロ人が、レバランを迎えるため郷里に向かう時、彼らを暖かく出迎えるのが、この何万、何十万という灯火なのである。



## チャップ・ゴ・マー (CAP GO MEH)

『十五夜』のことを福建語でチャップ・ゴ・マーと発音する。これは、旧正月の15日を意味する。旧暦正月は全ての中国人が祝うが、福建人はその次に15日の夜を大事にするという。旧正月15日に行なう儀式を『チャップ・ゴ・マー』といい、中国人のみならず、ゴロンタロ人も毎年楽しみにしている。故ナニ・ワルタボネ翁もチャップ・ゴ・マーを好んだという。

儀式は、礼拝の他、剣舞、獅子舞い(バロン・ダンス)、竜の舞い(ドラゴン・ダンス)楽団などのアトラクションがある。

ゴロンタロはイスラームの街だが、他の宗教に対して非常に寛大である。1999年3月3日、Boliohoto 郡 Sidomulyo村で Vihara Dharma Mulya 仏教寺院が完成した。これは、1993年に2億ルピアの予算で計画されていたものが、経済危機の影響で総工費10億ルピアとなり、本年ようやく完成したものである。落成式には、E. E. Mangidaan 州知事が出席したが、落成式の実行委員として、地元ムスリムの指導者 Thamrin Mangindaan 氏やキリスト教やヒンドゥー教の指導者たちも名を連ねている。

前述の竜の舞いにおいても、中国人のみならず、プリブミのゴロンタロ人も参加している。ゴロンタロでは、『チャップ・ゴ・マー』は既に街の伝統行事の一つになっているのである。

## ゴロンタロの銘菓： ピア (PIA)

ピアは、本来は中国の菓子で、福建語で『餅』という意味である。

しかし実際は餅というより饅頭である。

中身は、黒餡が普通だが、チーズなどの変わり種もある。

パイのような皮で包まれている。

円形で、直径5センチの小型のものから直径15センチの大型のものなど様々の大きさがある。

賞味期限は約1週間ほど。

マナドの土産店やスーパーでも販売している。右見本の『OHARA』の他にも、

『BAHAGIA』『CENDERAWASIH』

『RAMAYANA』など多数の銘柄がある。



## ゴロンタロの名物料理： ミル・シラム (MILU SIRAM)

本来、ゴロンタロ語では、ビンテ(Binte) というが、『ミル・シラム』としての名の方が一般的になっている。【『ティヌトゥアン』(Tinutuan)が『プブール・マナド』として全国的ブランドになった例と似ている。】ミル(Milu)とは、ミナハサ語で玉蜀黍の意味。

『ミル・シラム』とは、《玉蜀黍スープ》のことである。

中身は、碗の半分以上を占める玉蜀黍の他には、小魚(又は干小エビ)、椰子の実(白い果肉)、長ネギ等というシンプルなもの。ミー・バツなどのように軽食として食べられる。玉蜀黍はゴロンタロの主要産物で、国内だけでなく、マレーシアへも輸出している。

ミル・シラムはマナドでも味わうことができる。Jl. Sudirman のFuji Film の3軒隣の店。毎日午後6時から品切れになるまで営業。一杯2千ルピア。メニューはミル・シラムのみ。カンブ・アラブにもミル・シラムの専門店が数軒ある。

- 主要参考文献：
- ① MANADO POST (日刊マナド・ポスト)
  - ② WARTA SULUT (週刊北スラウェシ・ニュース)
  - ③ PESONA NYIUR MELAMBAI SEBUAH REFLEKSI
  - ④ NORTH SULAWESI VISITOR'S GUIDE BOOK

日本人の皆様お元気ですか？マナドにきてから2か月になりました。これからもよろしく  
お願いいたします。インドネシア母と子の健康手帳プロジェクトを紹介させて、いただき  
ます。

### グローバルな視点から、インドネシアの母子保健を考える

インドネシア母と子の健康手帳プロジェクト

北スラベシ州事務所

(埼玉県健康福祉部健康福祉政策課 芝山江美子)

#### はじめに

わが国の乳児死亡率は、1950年には、60.1（出生1000人当たり）と高かったが、1996年には3.8と世界最高水準に達している。しかし世界を見渡すと、現在でも開発途上国では、乳児死亡率が50以上の国が60か国以上もあるといわれている。開発途上国の側からは、第2次世界大戦後の急激な乳幼児死亡の減少を経験したわが国の母子保健に学びたいという非常に強い期待が寄せられているが、開発途上国では、文化、宗教、経済状況、交通手段、教育レベル、移住環境などの保健医療を取り巻く環境がわが国と大きく異なり、医師などの保健医療従事者の不足、医療施設や器具の貧弱さなど保健医療面での種々の問題を抱えており、日本の経験がそのまま現地で応用できるわけではない。日本では、戦後の母子健康手帳が始まったのは、ちょうど50年前である。現在では、世界的に日本の母子手帳が注目を集めている。

インドネシアにおける母子保健の現状は、出産については、自宅で伝統的出産介助人によって行われる例が50%以上で、妊婦の死亡原因は、分娩時の出血・感染症・子癇発作の順に多い。また、ハイリスク妊婦が病院に搬送される途中で死亡してしまうケースがかなり多い。機能の整った病院への搬送体制にまだ問題がある。また、子供の死亡の直接原因の70%以上は感染症によるものであるが、その背景には子供自身の栄養失調、親の教育不足、劣悪な衛生環境が大きな要因になっている。そして、これらの諸要因はまさに貧困と深く結びついている。開発途上国では、貧困、急激な人口増加、農村や都市の環境の悪化が相互に作用し、これらの社会経済的要因が、子供の死亡と大きくかかわっている。

#### 母と子の健康手帳プロジェクトの発足と経緯

この母子健康手帳普及活動は、中部ジャワで実施された家族計画母子健康手帳プロジェクトがはじまりである。1993年、1人のインドネシア医師が日本での研修で、母子健康手帳活動を視察した。彼は、非常に興味を持ち、日本の母子健康手帳が妊娠時から5歳までの間、母親達の教育や母子保健状況の改善に大きな役割を果たしているため、インドネシアにもこの活動を紹介したいと考えた。初めは、人口約15万人のサラティガ市で、試行し、非常に良い成果を得た。その後、保健所スタッフや保健ボランティアへの多大なインパクトや比較的学歴の低い母親に対する教育効果などが明らかになるにつれ、世界銀行やユニセフの関心も高まり、活動地域は急速に広がり、1997年には中部ジャワ州の約

